

命のために。生きるのそばに。



JSICM

第52回日本集中治療医学会学術集会

教育セミナー(ランチョン)41

日時

2025年3月16日(日) 12:10~13:10

会場

第12会場(福岡国際会議場 5階 502-503)

医療DX×RRS

～ EWS自動算出システムによるアウトカムへの影響～

座長



鹿瀬 陽一 先生

東京慈恵会医科大学 麻酔学講座 教授

演者



森 一直 先生

愛知医科大学病院 NP部 師長 / 看護学部 臨床教授

※ 学会参加申込時に一緒に申込みください。学会の参加申込期間と教育セミナー(ランチョン)申込期間は異なりますのでお気を付けください。
教育セミナー(ランチョン)事前申込期間：2025年2月3日(月)～3月6日(木)

医療DX×RRS

～ EWS自動算出システムによるアウトカムへの影響～

森 一直 先生

愛知医科大学病院 NP部 師長 / 看護学部 臨床教授

当院では、2020年1月よりRRS (Rapid Response System) の活動を開始した。RRSは、「起動要素 (Afferent Limb)」、「対応要素 (Efferent Limb)」、「管理監督要素 (Administration for overseeing all functions)」、「情報収集・評価・改善要素 (Data collection and analysis for process improvement)」の4つの基本構造から構成されている。また、患者のバイタルサインや所見を確認し (track)、その所見が閾値を超えた場合に迅速な医療介入 (trigger) を行う「track and trigger」システムもRRSの重要な構成要素である。

当院のRRSは、看護師主体のチーム活動としてRRTおよびCCOTで構成されている。活動開始から4年以上が経過し、RRTコール以外にも専用モニターを用いたバイタルサインを含む生理学的データからEWS (Early Warning Score) の算出している。EWSを利用して自動的にRRTを起動できるシステムを導入した結果、RRTの起動件数が増加した。

本講演では、起動件数の増加とアウトカムの変化を評価し、近年の医療DX普及に際して導入されたバイタルサイン自動転送システムおよびEWS自動算出システムの導入前後の変化について解説する。また、RRSの普及を目指した取り組みとして、当院の現在の取り組みを共有し、EWS運用に関する有用な情報をお持ち帰りいただければ幸いである。



命のために。生きるのそばに。

日本集中治療医学会
THE JAPANESE SOCIETY OF INTENSIVE CARE MEDICINE